

アンサンブル ディマンシュ

第 82 回演奏会

2018 年 2 月 17 日(土)

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



【プログラム】

メンデルスゾーン 序曲「静かな海と楽しい航海」 op.27

サン＝サーンス 交響曲第2番 イ短調 op.55

第 1 楽章: Allegro marcato - Allegro appassionato

第 2 楽章: Adagio

第 3 楽章: Scherzo: Presto

第 4 楽章: Prestissimo

♪ 休憩 ♪

モーツァルト 交響曲第 41 番 ハ長調 K.551「ジュピター」

第 1 楽章: Allegro Vivace

第 2 楽章: Andante Cantabile

第 3 楽章: Menuetto (Allegretto)

第 4 楽章: Molto Allegro

【プロフィール】

指揮 平川 範幸



1987年福岡県出身。福岡教育大学音楽科卒業。

上野学園大学研究生〈指揮専門〉にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣氏に師事。また、パーヴォ・ヤルヴィ、沼尻竜典の各氏の指揮講習会を受講。これまでに、音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。

2012年度、新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京の下で活動する。2013年度より2年間、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎の各氏の下で研鑽を積む。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、浜松フィルハーモニー管弦楽団などのプロ・オーケストラを指揮する。また、各地のジュニアオーケストラや学生オーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮する。

2016年度より、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。

【曲目解説】

メンデルスゾーン 序曲「静かな海と楽しい航海」 op.27

フェリックス・メンデルスゾーンが1830年(当時19才)にローマで作曲した演奏会用序曲。ゲーテがシチリア島に旅行したときの思い出を描いたとされる2つの詩『海の静けさ』と『楽しい航海』を音楽的に解釈・描写した作品です(改訂稿:1832年,ロンドン)。1835年にライプツィヒのゲヴァントハウス演奏会で当時常任指揮者だったメンデルスゾーン自身の指揮で初演されました。因みにベートーヴェンも同じ詩を用いて『合唱幻想曲』というカンタータを作曲しています(混声4部合唱と管弦楽のための作品,1813年)。

Adagio(静かな海) — Molt Allegro vivace — Allegro maestoso(楽しい航海)ソナタ形式。コーダに岸への到着の喜びを示す3本のトランペットによるファンファーレが鳴ります。『フィンガルの洞窟』と共に、ワーグナーに極めて強い影響を与えた描写的な標題音楽の一つです。ゲーテの詩については以下をご参照ください。

静かな海

深い静けさが水面を支配し
海はじっとして休息している
そして舟人は気づかわしそうに
あたりのたいらな水面を眺めている
どっちのほうからも風は吹いてこない
死のような恐ろしい静けさ
果て知れぬ遙かな方まで
一つの波もうごかない

楽しい航海

霧はあがって 空は明るい
エオルス(神風)は心がかかりな紐を解くと
風はざわめき 舟人も働き出す
急げ 急げ
波は分かれ 遠方も近づき
もう陸地が見えてくる

この曲の中では、颯爽と波を分けながら船が進む様を表現しているかのような優美なヴァイオリンのメロディとそれに絡む、なんと4拍3連の低弦と木管楽器のコンビネーション、ため息の出るような美しいアーメン終止…など聴き所は枚挙に暇がありません。若き日のメンデルスゾーンの痛快爽快な管弦楽法の試みをどうぞお楽しみください。

(Vc@Mitsu)

サン＝サーンス 交響曲第2番 イ短調 op.55

モーツァルトやメンデルスゾーンと同じく、神童タイプのサン＝サーンス(Charles Camille Saint-Saëns, 1835年10月9日-1921年12月16日)は3歳から作曲を始め、16歳には最初の交響曲を作っています。70年に及ぶ創作活動を通じてわかりやすい作品が多く、初めての映画音楽を作曲するなど、大衆に音楽を広めるような様々な分野に取り組んできましたが、晩年は近代・現在の作曲家が活躍を始める頃で、ともすると古典主義との批判を受けてきました。

そんな中で23歳という若い時期に作曲された交響曲第2番は、それほど演奏機会の多い曲ではありませんが、小節の頭に強拍がこないパッセージや、小節のまとまりを崩す(例えば本来8小節のところ、7小節で次のまとまりに進む)など、晩年の作品にも時々使われる技法がここでは多用されていて、交響曲第3番「オルガン付き」のような派手さはありませんが、チャレンジ精神旺盛で演奏者泣かせのスリリングな仕上がりとなっています。

この若い作品を、決して若いとは言えない私たちがどの様に料理できるか、乞うご期待！

I Allegro marcato - Allegro appassionato

イ短調の激しいテーマやフランス風の優しいテーマでソナタ形式を構成。

各楽器の掛け合い、特に木管4パートのパッセージの細かい受け渡しにご注目。

II Adagio

ホ長調、8分の3拍子。ミュートを付けた弦の独特の音色を中心に奏でる静かな間奏曲。

III Scherzo:Presto

4分の3拍子。小節の頭も、何小節目かも判らなくなるスケルツォ。

IV Prestissimo

ロンドソナタ形式、8分の6拍子。軽やかなメロディを中心にハイテンポでフーガ風に絡み合う。

終盤には2楽章のテーマが弦楽器5人だけのアンサンブルで回想される。

(たけ)

モーツァルト 交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

モーツァルト(1756-1791)の交響曲は、死後整理されて第1番から第41番まで41曲に番号が付けられていますが、後に発見されて交響曲として加えられた「番号なし」のものを含めると70曲以上になります。ただし、番号なしの交響曲は、真作かどうか疑わしいもの、断片のみのも、オペラの序曲からの転用とみられる単一楽章のものなど、モーツァルトの交響曲と定義することに疑問があるものが相当数含まれています。番号付きの交響曲でも、第2番は父レオポルドの作品、第3番はドイツの作曲家アーベルの作品であることが判明、第37番はミハエル・ハイドン(ヨーゼフ・ハイドンの弟)の作品にモーツァルトが第1楽章の序奏を加えたものであることが判明しており、現在では、これらはモーツァルトの交響曲から除外されています。また、第11番も偽作説があり、他の人の作品である可能性があります。さらに、第32番はシンフォニア(オペラなどの序曲や間奏曲)の一形態であるイタリア風序曲(急—緩—急の三部形式の序曲)で、本来3ないし4楽章から成るべき交響曲の体を成していません。この曲は、未完のオペラの序曲(シンフォニア)として書かれたものが独立して交響曲として認知されてしまったものと思われる。

モーツァルトの交響曲の中で、1788年に立て続けに書かれた3つの作品(第39~41番)は、「三大交響曲」と言われていますが、楽器編成がそれぞれ異なっているのが興味深いところです。フルートが1本なのは各曲共通ですが、第39番にはオーボエの代わりにクラリネットが入っており、第40番(改訂稿)にはトランペットとティンパニがなく、第41番にはクラリネットが入っていません。ちなみに彼の交響曲の中で編

成が最も大きいのは、第 31 番「パリ」(1778 年)と第 35 番「ハフナー」(1783 年改訂稿)で、この 2 曲はクラリネットが入った通常の二管編成で書かれています。ハイドンがクラリネットを交響曲に取り入れたのは第 99 番(1793 年)が最初なので、モーツァルトの方が実に 15 年も早いのです。

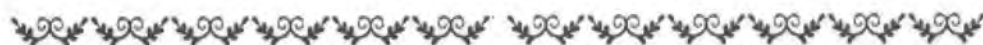
交響曲第 41 番は、没年の 3 年前の 1788 年に書かれた最後の交響曲ですが、作曲の経緯などはよく分かっていません。「ジュピター(ドイツ語読みではユピテル)」という愛称は、ヨハン・ペーター・ザロモン(1745-1815)というドイツの音楽家がローマ神話の最高神「Jupiter」に因んで名付けたものと伝えられています。19 世紀の半ばには一般に浸透し、副題としての地位を確立していたようです。この曲の第 4 楽章の主題は、C(ド)－D(レ)－F(ファ)－E(ミ)という音型で始まりますが、モーツァルトはこの音型がよほど好きだったようで、調性や拍子は異なるものの、交響曲第 1 番や第 33 番、ミサ曲ハ長調など数曲で使い回しています。余談ですが、ブラームスの 4 つの交響曲の調性は第 1 番から第 4 番まで順番に、C moll(ハ短調)－D dur(ニ長調)－F dur(ヘ長調)－E moll(ホ短調)と続きます。この調性の順番がジュピターの音型と一致しているのは偶然でしょうか。

(鷹白)



【第 82 回メンバー】

第 1 ヴァイオリン	阿部由香里、佐藤克哉、三瓶政一、☆時山響子、西川富之、西村 実、林 俊夫
第 2 ヴァイオリン	石嶺寿子、鹿野露馨、関根佳子、谷 亜由美、♪森 未知
ヴィオラ	柴野かおり、下山純也、♪関口孝司郎、千秋和久、山口 彰
チェロ	大宮哲朗、緒方 淳、菅田克彦、♪三次摂子、米倉俊郎
コントラバス	江川博之、♪須賀敬亮
フルート	上野京子、谷口玲子、徳植俊之
オーボエ	市川亜理、山口高司
クラリネット	浅井昭成、鈴木千暁
ファゴット	越島康太郎、星野未央、吉澤輝彦
ホルン	小磯 治、町田明子
トランペット	鴨狩公一、鴨狩布美子、菌部晴信
ティンパニ	星野武徳
	☆:コンサートマスター、♪:弦楽トップ
練習指揮	山上孝秋



♪ 次回の演奏会ご案内 ♪

日時：2018 年 9 月 23 日(日) 14:30 開演

場所：川口総合文化センター リリア 音楽ホール

指揮：平川 範幸

曲目：モーツァルト 歌劇「皇帝ティートの慈悲」K.621 序曲

ハイドン 交響曲 101 番 二長調「時計」

ベートーヴェン 交響曲第 1 番 ハ長調 op.21

詳細は HP <http://www.e-dimanche.jp/> をご覧ください。

※招待券ご希望の方はアンケートにご記入いただくか HP よりお申込みください。